

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.182

(2019年1月刊行)

Second-chance education in post-conflict Timor-Leste:
Youth and adult learners' motives, experiences and circumstances

Taro Komatsu

Research Project: [失われた教育機会の回復：紛争中及び紛争後の教育に関する研究](#)

■付加価値

本稿では、紛争後の東ティモールを事例に、紛争により教育機会を逸し、紛争後に再び学びの機会を得た若者・成人に焦点を当て、彼らの学習動機および機会獲得に至るまでの経験や背景を明らかにした。東ティモールでは、長期にわたる暴力と貧困により、人口の5分の1（約20万人）が基礎教育を受けていない。持続的な人間・社会・経済開発の実現という観点から、これら人々の教育を考えることは不可欠である。本研究では、学習者（当事者）の語りを通じて、紛争影響下における成人教育の意義や意味を考察した。その成果は、「教育と平和・紛争」研究分野への貢献に加え、「教育の価値」という教育学の関心にも応え得るものとなった。

■リサーチ・デザイン

本研究は、ライフストーリー・インタビューを主要調査法とし、フォーカス・グループ・インタビュー（FGI）および質問票調査を補完的に用いた。まず、基礎教育速習型の公教育同等プログラム（EP: Equivalency Program）で学ぶ若者・成人を対象に、FGIを都市と地方で計2回実施し、学習者の経験や動機を概括的に把握した。次に、教育機会の再獲得に関わる状況や学習動機の傾向把握、およびEP受講者プロフィールの情報収集を目的として、全国6か所で質問票調査を実施した（有効回答数：214）。その上で、質問票回答者から無作為に抽出したEP学習者18名（女性13名、男性5名）に対して、ライフストーリー・インタビューを行い、コード分析法により語りの内容を体系化して検討した。データの解釈には、質問票調査の結果のみならず東ティモール教育省EP担当局とEP支援機関（世界銀行およびユネスコ）職員に対する聞き取り調査の結果も参考にした。

■主な結論（政策的含意を含む）

データの分析結果によれば、EP受講者の多くがセカンド・チャンス教育（SCE）の機会を希求。その理由は、主に、知ることへの欲求や自尊心の向上といった学びの内的動機に基づくことが分かった。彼らのライフストーリーの語りからは、紛争下における通学路の危険性や抵抗運動への参加、社会の混乱やそれに起因すると考えられる貧困のために教育を断念せざるを得なかった無念さ、さらには、学齢を過ぎて教育を受けていない「失われた世代」となることへの絶望感が浮き彫りになった。彼らは、SCEによって、学びによる内的満足感や自己決定権・行為主体感、そして、それらの向上による自己肯定感を得ていた。また、彼らの学びへの欲求は、国家の独立による「新しい社会の到来」という高揚感とその社会の市民となることへの期待感によって、さらに強まっていた。本研究は、学びが、生産性の向上という人的資本の形成のみならず、内的満足感や自己肯定・効力感、決定権の獲得といった人間の幸福感や尊厳に直接的に関わる恩恵をもたらすことを示している。独立を達成した東ティモールは、SCE拡充により、万人の学習権保障と人間の尊厳を促進する契機にあると言える。